



AWM SOUND EXPANDER

EMT-10

取扱説明書

クラビノーバ/ポータートーン/ポータサウンド用

YAMAHA

このたびはヤマハAWMサウンドエクスパンダー
EMT-10をお買い上げいただきましてありがとうございました。

AWMサウンドエクスパンダーEMT-10は、
ヤマハが誇る先進のデジタルテクノロジーを結集して完成させた
画期的な音源モジュールです。
限りなく原音に近いAWM音源は、
演奏を一層豊かな響きにし、
深い感動を呼び起こします。
さらに、MIDI機能も充実し様々な楽しみ方が可能です。
本書では、EMT-10の優れた機能を十分理解していただけるよう、
正しい取り扱い方を説明しています。
ご使用前にぜひご一読ください。

もくじ

	ページ		ページ
1 電源について	1	5 機能	6
2 各部の名称とはたらき	2	6 MIDIコントロール	8
3 EMT-10早わかり	3	■ 故障と誤りやすい現象	10
4 音色/効果	5	■ MIDIインプリメンテーションチャート	11

ご使用のまえに... ながくお楽しみいただくために、次の点にご注意ください。



…設置場所

次のような場所でご使用になれますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- 窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所。
- 温度の特に低い場所
- 湿度やホコリの多い場所
- 振動の多い場所
- EMT-10には放熱用の穴がたくさん開いています。穴をふさがないようにご注意ください。
- オーディオアンプなどの近くに置くとブーンというハム音が出る場合があります。この場合は、オーディオアンプなどから離してください。



…無理な力を加えない

過度の衝撃や無理な力を加えると故障の原因となります。本体を落としたり、上に座ったりしないようにご注意ください。



…電源の処置

ご使用後は、必ず電源スイッチを切ってください。また、電源アダプターもご使用後は必ずはずしてください。



…外装のお手入れ

お手入れは、乾いた布でカラ拭きしてください。シンナーやベンジンなどの溶剤は、外装をいためますので、使用しないでください。



…他の機器との接続

キーボードなどの他の機器と接続する場合、両方の電源スイッチを切ってから接続してください。

1 電源について

EMT-10は、電源として別売のヤマハ電源アダプターを使用するようになっています。次の注意事項をお読み下さり、正しく接続してください。

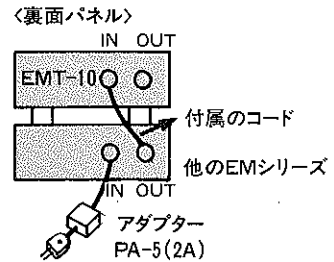
〈EMT-10を単独でお使いになる場合〉

必ず、ヤマハアダプターPA-4またはPA-5をお使いください。これ以外のアダプターを御使用になりますと、EMT-10の故障の原因となり危険です。

〈EMT-10と他のEMシリーズを組み合わせて2台同時にお使いになる場合〉

EMT-10を他のEMシリーズのユニット（ディスクレコーダーEMQ-1など）と一緒に使う場合は、ヤマハアダプターPA-5をお使いください。アダプターの定格電流（2A）の範囲内であれば、PA-5ひとつで複数のEMシリーズのユニットに電源を供給することができます。

●接続方法は右図のようになります。付属の接続コードを使って一台のDC OUT端子ともう一台のDC IN端子をつないでください。



〈3台以上の同時使用の場合〉

組み合わせによっては3台のEMシリーズのユニットに1つのPA-5から電源を供給することができます。（PA-5の定格電流2Aを超える組み合わせに電源供給をすることはできません。）各ユニットの最大電流値を合計したものが、2A（2000mA）を上回らないように組み合わせてください。（各機器の最大電流値〇〇mAはリアパネルに表示されています。）

[組み合わせ例：1]



この場合は、2A（=2000mA）を上回っていませんので、1つのPA-5での3つのユニットを使用することができます。

[組み合わせ例：2]

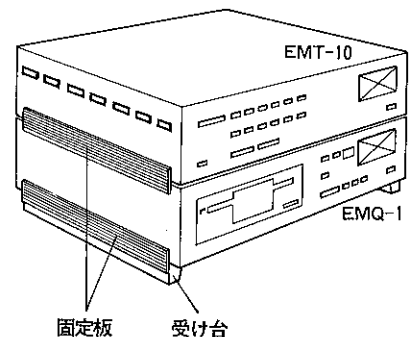


この場合は、2A（=2000mA）を超えていますので、アダプターは2つ必要です。

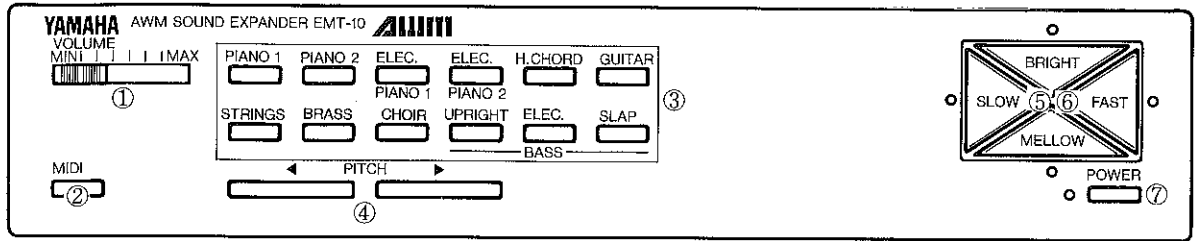
受け台と固定板の取り付け方

●付属品には2セットの受け台と固定板があります。受け台は、御購入になられた機種を一番下にして使う時に固定板と組み合わせお使いください。まず、受け台の5つの溝に固定板を差し込みます。それから、本体の側面にある溝に固定板を差し込んでください。同じように反対側の側面にも受け台と固定板を組み合わせたものを差し込みます。このようにするとクラビノーバなどの上にセットした場合、スピーカーからの音をふさいでしまうことがありません。

●また、他のEMシリーズをお求めになった場合は、他のEMシリーズの上にEMT-10を載せ、固定板だけをお使いになり、下にある他のEMシリーズの側面の溝と上にあるEMT-10の側面の溝をつなぎます。



■フロントパネル



①ボリューム

出力する音量を調節するレバー。

②MIDI

このボタンを押さながら他のボタンを押すと、様々な機能の操作ができます。

③音色セレクター

音色を選ぶボタン群。

④ピッチ

音程を微調整するボタン。◀を押すと音程が下がり、▶を押すと上がります。

⑤ブライツ・メロー (サウンドシフター)

音色の明るさをかえるボタン。

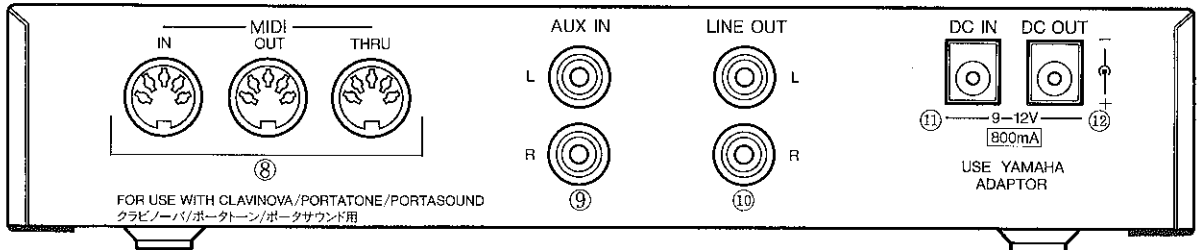
⑥スロー・ファスト (サウンドシフター)

音色の立ち上がり時間をかえるボタン。

⑦パワースイッチ

電源をオン/オフするスイッチ。

■リアパネル



⑧MIDI端子

演奏データなどの各種MIDI信号を入出力する端子。

⑨AUX IN端子

オーディオ信号を入力する端子。LINE OUT 端子からの外部の音と本体の音をミックスして出力する際に使います。

⑩LINE OUT端子

オーディオ信号をアンプなどに出力する端子。

⑪DC IN端子

電源アダプター (PA-4/PA-5) を接続する端子。

⑫DC OUT端子

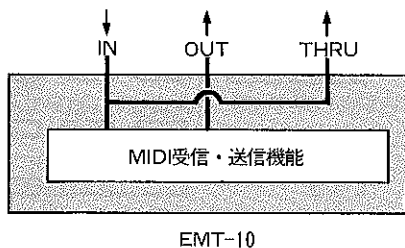
電源を他の機器に供給する端子。

3 EMT-10早わかり

■MIDI端子について

EMT-10には、3つのMIDI端子があります。

- ①MIDI IN ……MIDI信号を入力する端子。
- ②MIDI OUT ……EMT-10からのMIDI信号を出力する端子。
- ③MIDI THRU ……MIDI INで入力したMIDI信号をそのまま出力する端子。

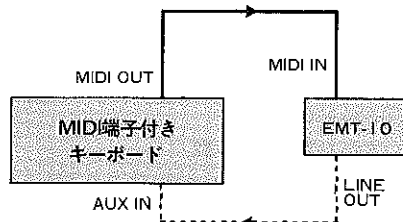


■キーボードとの接続例

基本的にMIDI端子を持つキーボードならどんな機種でも接続できます。

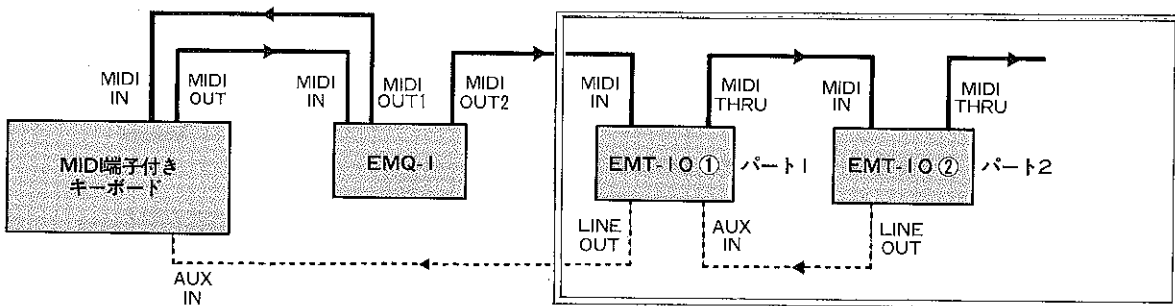
詳しくは、使用機種に関するMIDIに関する記述をよくお読みになって送・受信できるデータをご確認ください。

- キーボードを弾いて、EMT-10の音色を加えたアンサンブルが楽しめます。
- キーボード側にオーディオ信号を入力する端子がない場合は、外部アンプに接続してください。

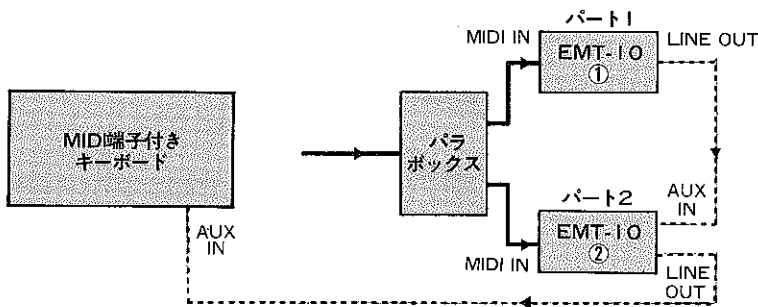


■シーケンサー/レコーダーなどを使用してオーケストラを楽しむ。

オーバーダブ機能を持ったシーケンサー/レコーダー（ヤマハEMQ-1など）をお持ちの方はEMT-10を複数個使えばEMT-10の1台1台に違うパートを割り当てオーケストラ的な演奏を楽しむことができます。まず、パートごとにキーボードの送信チャンネルを変えて多重録音します。それからEMT-10の受信チャンネルを鳴らしたいパートのチャンネルに合わせて、シーケンサー/レコーダーを再生します。



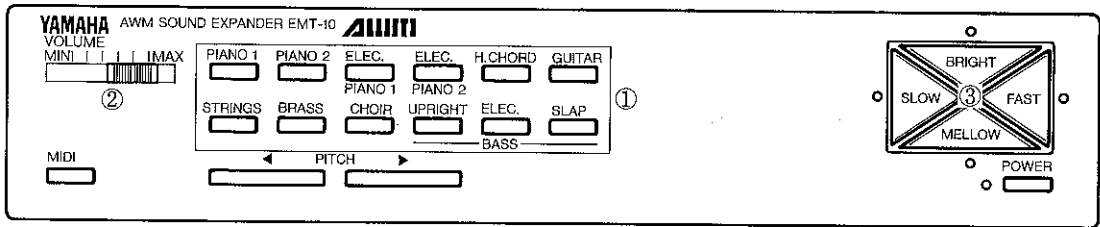
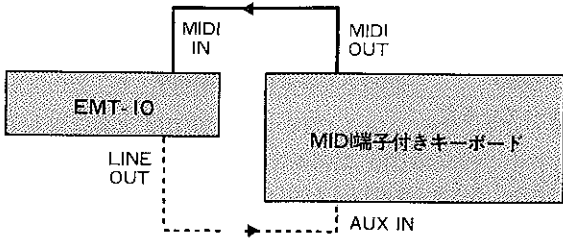
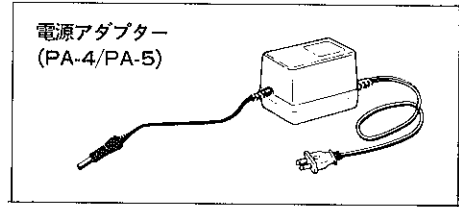
- 内の接続は、右図のようにパラボックスを使い、パートごとに情報を分けて接続することができます。



🎵 EMT-10の音をだしてみましよう。

STEP 1 演奏前の準備

- ① まずMIDIケーブルと接続コードで前ページの“キーボードとの接続例”を行ってください。
- ② EMT-10のDC-INに電源アダプター(PA-4/PA-5)を接続。
- ③ それから、キーボードとEMT-10のパウスイッチをオン。
- ④ キーボードを演奏できる状態にします。



STEP 2 演奏

- ① ①の音色セレクターで、音色を選びます。
- ② ②のボリュームをある程度上げておきます。
- ③ キーボードで演奏します。
キーボード側の音色とEMT-10の音色が一緒にできましたネ。
- ④ ②のボリュームを調節してください。
- ⑤ 好みに応じて③のサウンドシフターで効果をかけます。

4 音色/効果

以下の操作は、前ページの接続で、EMT-10がオムニ・オンのデフォルト状態（電源オン時の状態）を前提として説明しています。

①音色をひとつ選びます。

音色セレクターから音色をひとつ選びます。12種類の音色は減衰系と持続系に分かれています。

●減衰系の音色：右図——で囲んだ以外の9種類の音色。

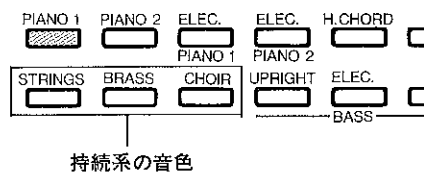
同時発音数は8音。

●持続系の音色：右図——で囲んだ3種類の音色。

同時発音数は8音。4音切り替え可能。（6ページ参照）

●持続系の音色を4音発音モードにした場合は、デチューンがかかっているため豊かな響きとなって出力されます。

デチューン：同じ音程の音をピッチを少し変えて重ね奥行感をだすこと。



②ボリュームを調節します。

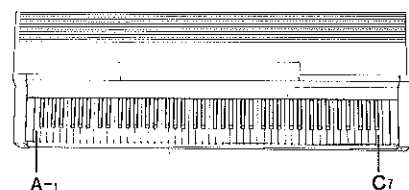
このボリュームで音量を調節します。



③キーボードを弾く。

キーボードを弾いてください。キーボード側の音色とEMT-10の音色が重なって発音されます。発音域は、A-1~C7ですので、基本的には88鍵以下のキーボードをお使いください。すべてカバーされます。ただし、ベース音は、1オクターブ低い音で発音することもでき、発音域はA-2~C6です。

●また、キーボード側で音色を変えてみてください。EMT-10側でも音色が変わります。



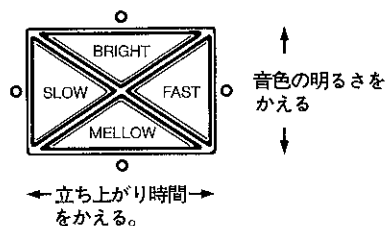
④次のことを試してください。（コントロールチェンジの受信）

キーボード側の次の操作は受信します。

- サステインまたはダンパー
- ソステヌート（減衰音のみ有効。STRINGS BRASS CHOIRには効きません）
- ソフトペダル
- モジュレーション、アフタータッチ、ピッチベンダーは受信しません。

⑤サウンドシフターで好みの音色にしてみましょう。

- 音色を明るい響きにしたい時は、ブライトのボタンを押します。反対に明るさをおさえてメロウな感じにしたい時は、メローのボタンを押してください。
- 音色の立ち上がり時間や音の消え方を遅くしたい時は、スローのボタンを押します。反対に速くしたい場合はファストのボタンを押してください。
- ランプが点灯している効果をオフにする場合は、反対側のボタンを押してください。



⑥タッチカーブの調整。

●クラビノーバのようなタッチセンサー付きのキーボードでは、鍵盤を弾く強さ（ペロシティー）によって音量をコントロールすることができますが、もし音量が小さく感じられる場合は7ページの「タッチカーブの変更」の操作をしてください。

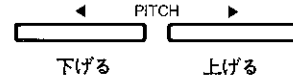
5 機能

- 音程をかえたり、持続系の音色の同時発音数を変えたり、左手をベース音色で弾くベーススプリットなどができます。
- これ以降の説明の中で、MIDIのボタンを使用する操作は、1回目のONで現在のセッティングが確認することができ、2回目以降のONで値やセッティングを変えることができますのでご注意ください。

■ピッチ：音程を微調整したい時。

ピッチを上げる時は▶、下げる時は◀のボタンを押します。1回押すと3セント変わり、±50セントの範囲で調節できます。

◀と▶を両方同時に押すとノーマル (A3=440Hz) に戻ります。

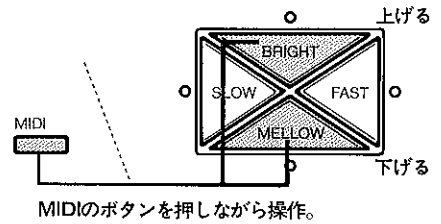


■トランスポーズ：半音単位で音程をかえる時。

キーを上げる時は、MIDIのボタンを押しながら、サウンドシフターのブライトのボタンを押します。キーを下げる時は、MIDIのボタンを押しながら、メローのボタンを押します。1回押すと100セント(半音)変わり、±600セント(±半オクターブ)の範囲で調節できます。

●ノーマルに戻す時は、MIDIボタンを押しながら、ブライトとメローのボタンの両方を同時に押します。

●ノーマルよりキーが高い時は、ブライトのランプが点灯。低い時は、メローのランプが点灯します。

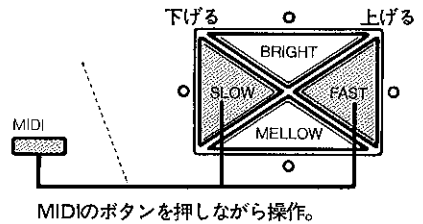


■オクターブシフト：オクターブ単位で音程をかえる時。

オクターブ上げる時は、MIDIのボタンを押しながら、サウンドシフターのファストのボタンを押します。下げる時は、MIDIのボタンを押しながら、スローのボタンを押します。1回押すと1オクターブ変わり、±2オクターブの範囲で調節できます。

●ノーマルに戻す時は、MIDIボタンを押しながら、スローとファストのボタンの両方を同時に押します。

●ノーマルより高い時は、ファストのランプが点灯。低い時は、スローのランプが点灯。



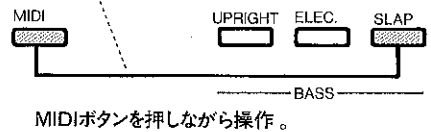
[NOTE]

トランスポーズまたはオクターブシフトした時は、受信したキーノート (どの鍵盤が押されたかの情報) が発音域外の場合は、自動的に1オクターブ上下させて、発音域内の音に変更します。(例) C8→C7として発音。

■持続系3音色の同時発音切り替え (8音モード↔4音モード)

MIDIのボタンを押しながら、スラップベースのボタンを押して、切り替えます。

●8音モードの時は、サウンドシフターのメローのランプが点灯。4音モードの時はブライトのランプが点灯します。パワースイッチON時は8音モードにセットされます。

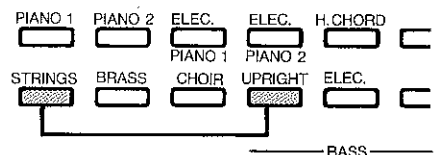


■ベーススプリット (ベース音とその他の音色の同時発音)。

ベースの3音色のいずれかと他の音色のボタンを同時に押すと、鍵盤がスプリットされて、F# 2以下の音域をベース音色、G2以上の音域を他の音色で演奏することができます。

このモードになると、減衰系・持続系の音色に関わらず、自動的に8音モードになり、ベース音色には2音、その他の音色には6音が割り当てられます。

もとの状態に戻す時は、どれか1つ音色を選んでスイッチを押してください。



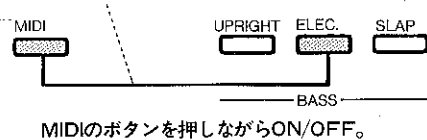
■タッチカーブの変更。

- タッチセンサー付きのキーボードではモデルによりタッチカーブ（鍵盤を弾くと発音される音の音量との相関関係の設定内容）が異なります。下記のモデルとEMT-10を接続して、もし音量が大きく感じられる場合はEMT-10のタッチカーブを切り替えてください。

CVP-3/5/6/7/8/10 PSR-6300

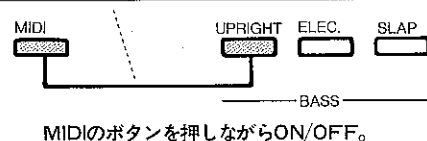
CLP-20/30/50/100/200/300/500 DSR-2000

- MIDIのボタンを押しながら、エレクトリックベースのボタンを押して、サウンドシフターのランプで現在のモードを確認してください。メロー点灯は標準タッチカーブ（ペロシティー=64の時mf）であることを示し、ブライ点灯はクラビノーバなどのタッチカーブ（ペロシティー=96mf）です。MIDIを押しながらもう一度エレクトリックベースを押してオンまたはオフにします。
- パワースイッチON時は標準タッチカーブにセットされます。



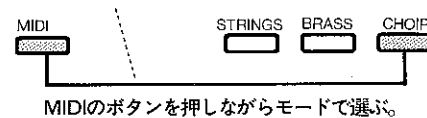
■ベース音のオクターブダウン。

- ベース音を入力ノートと同音程で発音させるか、入力ノートより1オクターブ低い音程で発音させるかを選択します。
- MIDIのボタンを押しながら、アップライトベースのボタンを押して、サウンドシフターのランプで現在のモードを確認してください。メロー点灯は入力ノートと同音程で発音される通常モードであることを示し、ブライ点灯は入力ノートより1オクターブ低い音程で発音させるモードであることを示します。MIDIを押しながらもう一度アップライトベースを押してオンまたはオフにします。
- パワースイッチONで通常発音状態にセットされます。



■受信ノートの分割選択。

- 偶数ノートナンバーのみを発音させるか、奇数ノートナンバーのみを発音させるか、通常の全ノートナンバーを発音させるかを選択します。これはEMT-10を2台ご使用になって、一台を偶数ノートナンバー、もう一台を奇数ノートナンバー受信にセットして16音ポリフォニックで弾く時に便利な機能です。
- まず、MIDIのボタンを押しながらクワイアのボタンを押してサウンドシフターのランプで現在のモードを確認してください。メロー、ブライの両方が点灯している時は、全ノートナンバー発音。メロー点灯は、偶数ノートナンバー発音。ブライ点灯は奇数ノートナンバー発音。MIDIボタンを押しながら、もう一度クワイアのボタンを押してモードを切り替えます。
- パワースイッチONで全ノートナンバー発音状態にセットされます。



■電源ON時のMIDI設定。

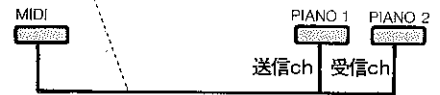
この設定は、ポリモード以外すべて変更可能です。オムニ オンでは、すべてのチャンネルの情報を受信するという意味になります。また、ポリとは同時に2音以上発音するポリフォニックという意味です。

■送・受信チャンネルの設定。

送信チャンネルのセットは、MIDIのボタンを押しながらピアノ1を押します（受信チャンネルのセットはピアノ2）。一回押すごとに現在のセットチャンネルから1チャンネルずつ増え続け、16チャンネルになると、1チャンネルに戻ります。

また、サウンドシフターの点灯ランプの組み合わせでチャンネルが確認できます。

送信チャンネル	1チャンネル
受信チャンネル	1チャンネル
モード	オムニ オン、ポリ
プログラムチェンジ	受信します。
コントロールチェンジ	受信します。



MIDIのボタンを押しながらON。

ランプ	加算値	点灯するランプ ch	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
BRIGHT	1	BRIGHT	●		●		●		●		●		●		●		●	
FAST	2	FAST		●	●			●	●			●	●			●	●	
MELLOW	4	MELLOW				●	●	●	●				●	●	●	●	●	●
SLOW	8	SLOW								●	●	●	●	●	●	●	●	●

●送・受信チャンネルの自動設定。

- MIDIのボタンを押しながらパワースイッチを入れると、送・受信チャンネルとも自動的に7チャンネルにセットされ、オムニ オフになります。
- MIDIとPIANO2のボタンを押しながらMIDI入力すると、その時の送信チャンネルに自動セットされます。

■モードの変更（オムニ オン/オフ）及びプログラムチェンジ・コントロールチェンジの受信。

MIDIのボタン押しながらか次のボタンを押すと、次のモードを変更できます。

- オムニ オフにすると指定した受信チャンネルのメッセージのみを受信します。
- プログラムチェンジをオフにするとプログラムチェンジ(音色番号の変更)の送・受信を行いません。
- コントロールチェンジをオフにすると、サステインなどのコントロールチェンジを受信しません。

モード	ボタン	BRIGHT点灯	MELLOW点灯
オムニ	ELEC.PIANO1	OFF	ON
プログラムチェンジ	ELEC.PIANO2	OFF	ON
コントロールチェンジ	H.CHORD	OFF	ON

■プログラムチェンジ（音色番号）の送・受信。FORMAT (CnH, pp) *n=チャンネル番号 pp=音色番号

- マスター側（送信側）で音色を変えると、その音色番号が送信され受信側もその音色番号に対応した音色に切り替わります。これをプログラムチェンジといいます。チャンネルメッセージのひとつですので、チャンネルがマッチしないと受信しませんのでご注意ください。

- 12以降の音色番号を受信した場合は、折り返して処理します。
12→0、13→1、14→2、15→3、16→4（48から95まではベーススプリット）96→1…127→4

- ベーススプリットの場合の音色番号

音色	音色番号
PIANO 1	0
PIANO 2	1
ELEC. PIANO 1	2
ELEC. PIANO 2	3
HARPSICHORD	4
GUITAR	5
STRINGS	6
BRASS	7
CHOIR	8
UPRIGHT BASS	9
ELEC. BASS	10
SLAP BASS	11

	PIANO 1	PIANO 2	E. PIANO 1	E. PIANO 2	H. CHORD	GUITAR	STRINGS	BRASS	CHOIR
UPRIGHT BASS	48 57	49 58	50 59	51 60	52 61	53 62	54 63	55	56
ELEC. BASS	64 73	65 74	66 75	67 76	68 77	69 78	70 79	71	72
SLAP BASS	80 89	81 90	82 91	83 92	84 93	85 94	86 95	87	88

エクスクルーシブメッセージ

■パネルデータの送信。FORMAT [F0H, 43H, 0nH, 7CH...F7H] *n=チャンネル番号。

MIDIスイッチを押しながら、ギターのパタンを押すと、現在のパネルのセッティングを送信します。主にレコーダーに送信します。



MIDIのボタンを押しながらON。

送信データ ……の部分	ピッチデータ、トランスポーズデータ、オクターブシフトデータ、音色番号、サウンドシフターデータ、発音モードデータ、タッチカーブデータ、オクターブダウンデータ、受信ノートの分割データ
----------------	---

■サウンドシフターの送・受信。FORMAT [F0H, 43H, 73H, 11H, 11H, nnH, F7H]

サウンドシフターのボタンを変えた時、右のデータを送信します。受信時にもこのデータに対応します。

BRIGHT	nn=07H
NEUTRAL	nn=08H
MELLOW	nn=09H
FAST	nn=17H
NEUTRAL	nn=18H
SLOW	nn=19H

■持続系3音色の同時発音数切り換え(4音/8音)の送・受信。FORMAT [F0H, 43H, 73H, 11H, 11H, nnH, F7H]

発音モードを変えた時、右のデータを送信します。受信時にもこのデータに対応します。

4音モード	nn=40H
8音モード	nn=41H

■タッチカーブの変更の送・受信。FORMAT [F0H, 43H, 73H, 11H, 11H, nnH, F7H]

タッチカーブを変えた時、右のデータを送信します。受信時にもこのデータに対応し、タッチカーブが変わります。

64をmf	nn=50H
96をmf	nn=51H

■ベース音のオクターブダウンの送・受信。FORMAT [F0H, 43H, 73H, 11H, 11H, nnH, F7H]

ベース音のオクターブダウンをおこなった時に右のデータを送信します。受信時にもこのデータに対応します。

ノーマル	nn=60H
オクターブダウン	nn=61H

■受信ノートの分割選択の送・受信。FORMAT [F0H, 43H, 73H, 11H, 11H, nnH, F7H]

受信ノートの分割選択をおこなった時、右のデータを送信します。受信時にもこのデータに対応します。

ノーマル	nn=70H
奇数ノートのみ	nn=71H
偶数ノートのみ	nn=72H

■その他のエクスクルーシブメッセージ

次のフォーマットのエクスクルーシブメッセージを受信した場合は、以下のような機能がはたらきます。

Panel Data Send Request	FORMAT [F0H, 43H, 2nH, 7CH, F7H]	パネルデータを送信する。
Name Data Send Request	FORMAT [F0H, 43H, 2nH, 7DH, F7H]	機種名などを示したネームデータを送信する。
Panel Data Receive Request	FORMAT [F0H, 43H, 0nH, 7CH...F7H]	……部分をパネル受信します。

n=チャンネル番号

故障と誤りやすい現象

- 次の現象は故障と誤りやすい現象です。故障と思う前に該当する項目がないか確認してください。
- 本機は、周辺機器のひとつであり単独で使うことはありません。したがって、使用にあたっては接続する機器のMIDI機能が重要なポイントとなります。対象機種種のMIDIに関する記述をよくご覧になって、本機との整合性を充分確認してください。

現象	原因と処置
音がでない	EMT-10のLINE OUTとアンプなどの入力端子を接続していないため。各機器の付属端子の機能を把握した上で接続してください。
発音中、音がでなくなる。	発音中、次の操作を行うと音がでなくなります。 ◆トランスポーズ、オクターブシフト、音色変更、オムニ変更、送・受信チャンネルの変更。次の（押鍵）キーオンで発音します。
ベーススプリットで発音中、4音モードに切り替えたら、ベース音がでなくなった。	ベーススプリットの時は8音モードになりますが、4音モードに切り替えると、ベーススプリットが解除されベース音は発音されなくなります。
持続系音色を高音から1鍵ずつ5鍵同時に押したら、5鍵目の音がでない。	持続系音色は高音優先です。4音モードにしてあると5鍵目からは音がでません。
減衰系音色を高音から1鍵ずつ9鍵同時に押したら、1鍵目の音がでない。	減衰系音色は8音ポリフォニックで後者優先です。 (ベーススプリットの時は左手側の音色は2音ポリフォニック)
弾いていたら、途中、音程がオクターブずれて発音された。	トランスポーズ、オクターブシフトを行うと、音域が発音域外の場合はオクターブ処理して発音させるためです。トランスポーズを解除するなどの措置をとってください。

仕 様

- 音 色 ◆減衰系：ピアノ1、ピアノ2、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、ハーブシコード、ギター
◆持続系：ストリングス、プラス、クワイア
◆減衰ベース系：アップライトベース、エレクトリックベース、スラップベース
- 音源方式 AWM音源
- 音 域 ベース系：A-2～C6 (9-96)
そ の 他：A-1～C7 (21-108)
- 発 音 数 減衰系／ベース系：8音ポリフォニック
持続系：8音ポリフォニック
- モ ー ド 8音モード／4音モード（持続系音色のみ）
ベーススプリット
- 効 果 ブライト、メロー、スロー、ファスト
- そ の 他 ボリューム、MIDI
- 付属端子 MIDI (IN, OUT, THRU)
AUX IN (L, R)
LINE OUT (L, R)
DC IN (9-12V)
DC OUT (9-12V)
- 定格電源 DC IN (9-12V)
電源アダプター (PA-4/PA-5)
- 最大電流 800mA
- 寸 法 間口 218mm
奥行 215mm
高さ 44mm
- 重 量 1.2kg
- 付 属 品 MIDIケーブル(1m)×1、接続コード(PSC-3)×1、DCコード×1、受け台×2、固定板×2

ファンクション		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1チャンネル ○	1チャンネル ○	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード1 オムニ オン/オフ ×	
ノート ナンバー	音 域	× *****	0-127 21-108	ベース発音域 A ₂ ~C ₆
ベロシティー	ノート・オン ノート・オフ	× ×	9nH, v=1-127 9nH, v=0, 8nH	
アフタータッチ タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチベンダー		×	×	
コントロール チェンジ	64 66 67	× × ×	○ ○ (持続音は×) ○	サステイン、ダンパー ソフトヌート ソフトペダル
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ 0-88 *****	○ 0-127	
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカル ON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	× ○ ○ ○	(124、125も有り)
備考				

モード1：オムニ・オン、ポリ モード2：オムニ・オン、モノ
 モード3：オムニ・オフ、ポリ モード4：オムニ・オフ、モノ

○：あり
 ×：なし

本 社

シングルキーボード事業部/〒430 浜松市中沢町10-1

TEL.0534(60)3275

東京営業所/〒104 東京都中央区銀座7-9-18パールビル

TEL.03(572)3130

東京特販営業所/〒104 東京都中央区銀座7-9-18パールビル

TEL.03(572)3130

大阪営業所/〒542 大阪市南区南船場3-12-9心斎橋プラザビル東館

TEL.06(252)7491

名古屋営業所/〒460 名古屋市中区錦1-18-28

TEL.052(201)5150

九州営業所/〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

TEL.092(472)2152

北海道営業所/〒064 札幌市中央区南1条西1-4ヤマハセンター

TEL.011(512)6113

仙台営業所/〒980 仙台市大町2-2-10住友生命仙台青葉通ビル

TEL.022(222)6141

広島営業所/〒730 広島市中区紙屋町1-1-18

TEL.082(244)3749

YAMAHA

YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社

YAMAHA feelin' club



T4960693005835